

「海ごみグッズ製作を」

市の活性化策や観光施策、環境問題の解決策など、高校生の視点で研究してきた成果を披露した。（矢吹喜一朗）

玉野高3年生が「地域の課題」提言

「海ゴミの再生と防止」をテーマに発表したグループは、日の出海岸などで拾ったガラスの破片・シーグラスや貝殻を使ってフォトスタンドやキーホルダーといった海ごみグッズを製作。文化祭で販売し、収益は海洋保護団体に寄付することを提言した。防止の観点からは、自分たちで描いた海ごみ削減を呼び掛けるポスターを市内の海岸周辺に掲出してもらう案を挙げた。

同グループの橋本佳歩さん(18)は「海ごみは先輩方も取り組んできた課題の一つ。きれいな海や砂浜を守るために文化祭での活動やポスター掲示などで積極的に行動していきたい」と話していた。

環境問題や市活性化策 探究活動の成果披露

このほか、「玉野の無名観光地ガイドマップ」「私たちの宇野港を有名にしたい」などテーマ名にこだわったプレゼンテーションもあった。

発表会は1、2年生に加え、市商工観光課職員らも参加。講評では、市職員らが「現場に赴いて、しっかり情報を取れている」「課題に対する自分なりの答えにたどり着くことが大事」などと話した。

探究活動は、地域への提言を意識して2019年度から毎年実施している。3年生は昨年から希望進路別に2〜6人でグループをつくり、校外調査も重ねて課題への探究を進めてきた。



市の活性化や環境問題など探究活動の成果を発表する玉野高の3年生

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。